



里浜貝塚は発掘100周年を迎えます！

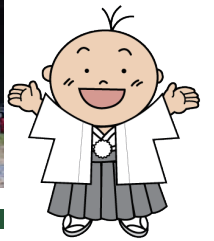
謹賀新年

大正から始まった発掘。

日本の考古学の歴史は、明治10年のエドワード・S・モースによる東京都大森貝塚の発掘に始まりますが、里浜貝塚の研究の歴史も古く、明治30年代には全国的に知られるようになりました。そして、その名を有名にしたのは、大正7、8年の東北帝国大学の松本彦七郎博士らによる里浜貝塚の最初の発掘調査です。多数の縄文人骨が発見され、発掘調査の方法や種論、古環境の分析など、いまに繋がる先駆的な研究がおこなわれました。その発掘から100年。今年は日本の貝塚研究にとっても、節目の年となります。

やります！大・里浜展！

里浜貝塚の発掘百年を記念して、今秋、特別展「里浜貝塚のすべて（仮）」を開催します。「東松島市にそんな遺跡があったなんて知らなかった」というあなた。「縄文人なんて関係ない」なんて思っているあなた。地域に息づく歴史とともに、私たち現代日本人につながる縄文の生活や知恵と技を、里浜縄文人が語りかけてくれます。乞うご期待！



例年以上の収穫量にほくほく♥カキ養殖

旧年はおかげさまで開館25周年を迎えました。イベントでは初めてご参加いただく方も多く、たくさんのお会いがある1年でした。今年もどうぞよろしくお願いたします。



▲過去最多の68名のカキ好きさん達。岩手、茨城からも参加！



▲種付けの時にはほとんど見えなかったカキがびっしり！

11月26日「カキ養殖体験②収穫」を開催。4月に種付けをしたカキを収穫し、縄文の道具を使って味わいました。船に乗り、半年ぶりにカキと再会！ずっしりとした重みに期待が膨らみます。漁師さん曰く今年は例年以上の量！

「剥きやすい！」と縄文の知恵に驚いていました。カキ鍋、カキごはんなどのカキづくしランチもあつという間になくなり、旬の味を堪能した皆さんでした。

港へ戻ると、縄からカキをはずし、泥やゴミを取って洗浄。「カキを食べるまでこんなに大変なんだね。」と漁師さんの苦労と感謝の声も聞かれました。いよいよカキを試食する時が！シカの角のハンマーと骨ペラを駆使し、カキ剥きに挑戦！「シカ角ハンマーって、金づちよりも優しい使い心地！」

採集したつるでカゴ作り。



11月18・19日の2日間「つる編みに挑戦しよう！」を開催しました。1日目は、史跡公園の山へ入り自分で

つるを採集します。つる編みに使用するつるは、くるくる木に巻きつけているのではなく、土の中！土を掘り、草をかき分け、を這うつるの採集に没頭しました。採集後は根を切り水洗いして準備完了！



▼だんだんカゴらしくなっていくわくわく♪



2日目は「つる編み」。まず学芸員の縄文講座から。現代に伝わる編み方は縄文時代には完成していたことを知ると「数千年前にもうこんな複雑な編み方が！」とびっくり！今年参加者のほとんどが初心者。つるの扱いに苦戦しましたが、丁寧につるを編み、素敵な作品を作り上げました。

【縄文村・冬の行事予定】

企画展 「縄文人のからだのひみつ」 1/27(土)～4/15(日)
 骨から縄文人像に迫ります。縄文人ってどんな顔だったの？体つきは…？病気は…？出産の痕跡も…？人骨に残された痕跡や最新の理化学的分析から縄文人の暮らしぶりを明らかにします。

企画展記念・講演会 1/28(日) 10:00～12:00 縄文村シアター

「縄文人の顔とからだ」
 澤田純明氏 (新潟医療福祉大学医療技術学部)
 「骨からわかる縄文人の妊娠と出産」
 五十嵐由里子氏 (日本大学松戸学芸学部講師)

野蒜・東名運河座談会 野蒜市民センター

東名運河や野蒜海岸、陸の松島など野蒜地域の魅力(たから)を活かしたまちづくりについて考えます。

■1/14(日) 10:00～12:00
「被災した野蒜海岸の再生に向けて」
 講師 平吹喜彦氏(東北学院大学)、
 後藤光亀氏(貞山・北上・東名運河研究会)

■2/25(日) 13:00～15:00
「野蒜のたからを活かした観光まちづくり」
 講師 宮原育子氏(宮城学院女子大学)、
 後藤光亀氏